

屋久島生態系モニタリング

屋久島中央部の植生垂直分布調査 (平成19年度調査)

縄文杉周辺(1300m付近)の植生と植物相

縄文杉は、デッキから見て正面が東側、右方が北側、後方が西側、左方が南側となる。

縄文杉の周辺には、ヒメシャラ、カナクギノキ、タンナサワフタギ、ヤマグルマ、ユズリハ、イソノキ、シキミ、リュウブ、ハイノキ、アセビ、ソヨゴ、サクラツツジ、スギ、ヒメヒサカキ、ミヤマノキシノブ、ヤクシマシソバツナミ、ヤクシマヒメバライチゴ、コケトウバナ、フタリスズカ、コバノイシカグマ、ホウロクイチゴなどが生育している。

また縄文杉周辺の岩上蘚苔層には、コケトウバナ、サンショウソウ、コウヤコケシノブ、ヒメツルアリドオシ、イヌワラビ、ヒメチャルメルソウ、イワガラミ、コミヤマカタバミ、などが、倒木上にはヒメヒサカキ、スギ、ヒメテンナンショウ、ヒメシャラ、サクラツツジ、イワガラミ、ユズリハ、リュウブなど計30種の生育が確認された。

縄文杉に着生している植物は、アクシバモドキ、ヒカゲツツジ、ソヨゴ、サクラツツジ、マルバヤマシグレ、イワガラミ、ヒメツルアリドオシ、アオツリバナ、ヤマグルマ、ユズリハ、オオカメノキ、ナナカマド、スギ、ヒノキ及びホソバコケシノブ、コウヤコケシノブ、キヨスミコケシノブなどである。

このため、九州森林管理センターでは西部地域及び保全管理地域における現在の植生と群落等の状況を調査するとともに、ヤクシカによる被害状況を把握することとして、この中で早期に植生の保護、再生の方策を検討する箇所としての希少な植物の生育している場所、林

地域関係者との連携・協力について

西部地域におけるヤクシカ対策

西部地域の生息頭数は増加しているが、希少な植物の被害を受け、林



永田ステーションでの情報交換

縄文杉は平成十七年の調査から、樹皮が剥離している箇所が増加している。また、樹皮の剥離は、樹木の健康を害し、枯死の原因となる。剥離の原因は、ヤクシカによる食害、腐朽菌の感染、日射による乾燥、凍害などである。剥離した樹皮は、樹木の防御機能を低下させ、腐朽菌の侵入を容易にする。剥離した樹皮は、また、樹木の健康を害し、枯死の原因となる。剥離の原因は、ヤクシカによる食害、腐朽菌の感染、日射による乾燥、凍害などである。剥離した樹皮は、樹木の防御機能を低下させ、腐朽菌の侵入を容易にする。剥離した樹皮は、また、樹木の健康を害し、枯死の原因となる。剥離の原因は、ヤクシカによる食害、腐朽菌の感染、日射による乾燥、凍害などである。

縄文杉剥離治療経過



縄文杉剥離治療箇所

五箇所は樹皮が剥離し、樹木の健康を害している。剥離した樹皮は、樹木の防御機能を低下させ、腐朽菌の侵入を容易にする。剥離した樹皮は、また、樹木の健康を害し、枯死の原因となる。剥離の原因は、ヤクシカによる食害、腐朽菌の感染、日射による乾燥、凍害などである。剥離した樹皮は、樹木の防御機能を低下させ、腐朽菌の侵入を容易にする。剥離した樹皮は、また、樹木の健康を害し、枯死の原因となる。剥離の原因は、ヤクシカによる食害、腐朽菌の感染、日射による乾燥、凍害などである。

剥離した樹皮は、樹木の防御機能を低下させ、腐朽菌の侵入を容易にする。剥離した樹皮は、また、樹木の健康を害し、枯死の原因となる。剥離の原因は、ヤクシカによる食害、腐朽菌の感染、日射による乾燥、凍害などである。剥離した樹皮は、樹木の防御機能を低下させ、腐朽菌の侵入を容易にする。剥離した樹皮は、また、樹木の健康を害し、枯死の原因となる。剥離の原因は、ヤクシカによる食害、腐朽菌の感染、日射による乾燥、凍害などである。剥離した樹皮は、樹木の防御機能を低下させ、腐朽菌の侵入を容易にする。剥離した樹皮は、また、樹木の健康を害し、枯死の原因となる。剥離の原因は、ヤクシカによる食害、腐朽菌の感染、日射による乾燥、凍害などである。

屋久島の植物



イソマツ (イソマツ科)

登山道における危険木の処理について

屋久島には麓から遠望できる前岳(愛子岳、モツチヨム岳、七五岳など)や奥岳(宮之浦岳、永田岳、太忠岳など)への山岳部に続く登山道が多くあり、

屋久島の山岳部は巨樹が多く、観光客が数多く訪れる。しかし、樹木の健康を害し、枯死の原因となる。剥離の原因は、ヤクシカによる食害、腐朽菌の感染、日射による乾燥、凍害などである。剥離した樹皮は、樹木の防御機能を低下させ、腐朽菌の侵入を容易にする。剥離した樹皮は、また、樹木の健康を害し、枯死の原因となる。剥離の原因は、ヤクシカによる食害、腐朽菌の感染、日射による乾燥、凍害などである。



除去作業の様子

落下の恐れのある枝の除去作業が行われている。作業員は安全対策を講じて、慎重に作業を行っている。

九州南部以南に分布する常緑の多年草。海岸の岩の間などに生育しており、古い茎は木質化し硬くなっている。葉はへら形で多肉質。葉の間から高さ10cm程度の花柄を伸ばし淡紫色の花をびっしりとつける。花期は八月〜十月。

平成21年月別・地点別雨量観測データ

「この雨量観測は気象業務法6条1項1の研究のために行う気象の観測となっています。」

| 観測点 | 保全センター | 宮之浦林道 233支線 | 白谷 216林班 | 小杉谷 事業所跡 | 永田かか 岳付近 | 大川林道 終点 | 淀川登山道 入口 | 黒味岳山頂 付近 |
|-----|---------|----------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|
| 標高 | 5m | 500m | 560m | 680m | 730m | 1,020m | 1,380m | 1,800m |
| 1月 | 319.5 | 欠測 | 640.0 | 607.0 | 253.0 | 330.5 | 502.5 | 228.5 |
| 2月 | 158.5 | 欠測 | 271.0 | 304.0 | 208.0 | 372.5 | 636.5 | 246.5 |
| 3月 | 500.0 | (107.0) | 1,229.5 | 622.5 | 288.5 | 441.5 | 830.5 | 298.5 |
| 4月 | 99.0 | 206.0 | 208.0 | 358.5 | 176.0 | 430.0 | 757.0 | 202.0 |
| 5月 | 104.0 | 379.0 | 238.5 | 482.0 | 99.5 | 432.5 | 476.0 | 207.5 |
| 6月 | 250.0 | 535.0 | 498.0 | 480.5 | 353.5 | 515.0 | 746.0 | 348.5 |
| 7月 | 欠測 | 200.0 | 178.0 | 245.0 | 172.0 | 216.5 | 301.5 | 219.0 |
| 8月 | (30.0) | 387.5 | 373.5 | 272.0 | 71.0 | 92.5 | 305.0 | 274.0 |
| 9月 | 126.5 | 139.0 | 220.0 | 298.0 | 64.5 | 114.5 | 333.5 | 138.0 |
| 10月 | 411.5 | 808.5 | 1,100.0 | 1,104.5 | 158.5 | 594.0 | 981.5 | 395.0 |
| 11月 | 527.0 | 542.5 | 709.5 | 805.0 | 273.5 | 402.5 | 682.0 | 342.5 |
| 12月 | 490.5 | 441.0 | 541.5 | 331.5 | 305.5 | 416.5 | 372.0 | 99.5 |
| 合計 | 3,016.5 | 3,745.5 | 6,207.5 | 5,910.5 | 2,423.5 | 4,358.5 | 6,924.0 | 2,999.5 |

()書きは月の一部を集計しているもの。

(単位はmm)

標高別雨量比較表

